特別支援学校（病弱教育）高等部３年　「アクティブ 10 公民」を活用した消費者教育

東京都立光明学園　病弱教育部門　主任教諭　川口　尚人

【実践報告の概要】

成人年齢が 18 歳に引き下げられたことを受けて、高３の生徒に対して、学校で「公民権教育」、「消費者教育」を授業の中でどう取り組んでいるかが非常に注目されている。本校の病弱教育部門高３では、既習の日本史・世界史・地理・現代社会の復習をする「地歴・公民演習」という科目を学校独自で設定して行っている。選択授業ではあるが在籍生徒５名全員が選択しているので、この授業で、消費者教育を行う計画を立てた。NHK for School「アクティブ 10 公民」と「10min. ボックス生活・公共」を視聴して消費者としての心構えを考える機会とした。（５時間扱い）

【キーワード】＃特定商取引法　＃クーリングオフ　＃消費者安全法　＃デジタル決済　＃電子マネー

【取組の具体】準ずる教育課程高３現代社会分野

単元名「消費者教育」本時２／５

『“キャッシュレス化”が生み出すものは？』

ねらい　18 歳になれば高校生でも成人になり、いやでも消費生活に直面せざるを得なくなる。キャッシュレスの経済的な利便性と注意点を理解して適切なキャッシュレス利用ができるようにする。

1. キャッシュレス化についてねらいを確認する。
- キャッシュレス化が進むと生活はどう変わるのだろうか？

2. NHK for School「アクティブ 10 公民」第 14 回『“キャッシュレス化”が生み出すものは？』を視聴する。
- 一斉視聴、同サイトの“あらすじ”をダウンロード、コピーして配布。

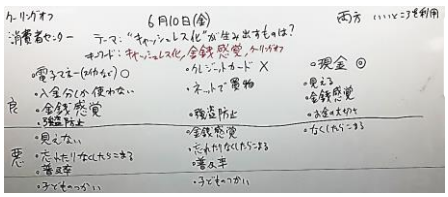
3. ワークシートに沿って各自で考え、記入する。
- 消費者を守る法律・制度とは？
- “キャッシュレス先進国”スウェーデンの例
- キャッシュレスのメリットは？
- キャッシュレスの問題点

4. 各自で考えたことを共有する。
- ワークシートに沿って１つずつ意見を出していく。

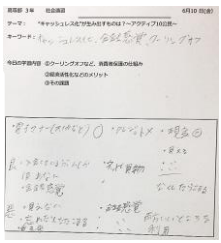
5. “キャッシュレス化”で生活はどう変わるか考える。
- 利便性と問題点を考えて互いに意見を出し合い、共有する。

6. 本時の感想を各自でまとめる。（発表はしない）
- 感想は毎回書いているワークシートに書く。

7. 小論文対策として思考の流れに沿ってまとめる。
- 時間があったら、授業の流れと同じような手順で文章をまとめて小論文にする練習をする。



板書←



ワークシート→

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「アクティブ 10 公民」

「なぜそのような問題が起こっているのか？」「どうして解決できないのか？」など、現代社会のしくみを掘り下げます。新しい学習指導要領で重視されるいわゆる“アクティブ・ラーニング”のスイッチを入れます。（同サイト番組紹介より抜粋）

○中高生向きの番組で、出演者の岡崎体育さんが親しみやすく高校生に受け入れやすい。
○知識だけでなく自分の身近な生活として、つまり自分事として捉えることができる。
○番組の順番に沿って同様に考えることでアクティブ・ラーニングの進め方を知ることができる。
○教科書から派生した実社会の課題をより深く考え、追究することができる。

【本実践における工夫点】

消費者教育のねらいを意識する
- キャッシュレスの利便性と問題点を明確にして、賢い消費者になるための知識を得る。
- 計画的に使うなど、問題点を克服することで経済活動の一端として豊かな生活を送れることを知る。

ワークシートの効果的な活用
- 普段の授業で使っている形式で今回のために作ったものを提示することで、思考の流れや活動の手順がよくわかるようにする。後日の振り返りや欠席した生徒のために「あらすじ」もダウンロード、プリントアウトして配布する。

小論文対策として思考や記述する手順を明示する
- 番組のテーマを基に、400 字程度で小論文が書けるように、記述の展開を提示する。それぞれの部分を 40～50 字でまとめる練習をすることで論理的に記述が展開できるように手順を明示する。それに慣れてきたら 1200～1600 字でも同様にできるようにする。

【本実践の成果と課題】

○公民の教科及び消費者教育のねらいに合わせて視聴することで教科の理解と実生活の消費行動の理解を習得させることができる。
●現代社会では今までも行ってきた内容だが、年度途中で「成人としての消費者教育」を実践することになったので、当初は場当たり的に進めたが、来年度は年間指導計画を作成して系統的に進めたい。

２０２２年６月